

令和3年度 学校評価自己評価表

a ミッション	【世羅町教育プラン】 豊かな人間性をもち、たくましく未来を拓く、しなやかで、品格のある生徒の育成		a ビジョン 【めざす学校像】 学んでよかった(生徒)、学ばせてよかった(保護者)、学ばせたい(地域)、やりがいのある(教職員)学校 【学校教育目標】 豊かな心をもち、主体的に学び合う生徒の育成		(子どもたちに育てたい資質・能力) ◎ 知識・技能 ◎ 思考力・判断力・表現力 ◎ 主体性・人間性		世羅町立世羅西中学校					
評価計画			自己評価				学校関係者評価		改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値 達成値	7月 k 達成値	1月 k 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イロハ	l コメント	m 改善案
学力の向上 生徒の主体的な学びを引き出し、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。	生徒の主体的な対話的な活動を通して、教科の深い学び合いをめざし、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。	○ジグソー法を使った協調學習の全体授業研修・理論研修の実施(年2回以上) ○ジグソー法を使った協調學習の授業実践(1人2回以上) ○Chromebook を有効活用するための全体研修の実施(年3回以上) ○標準学力調査結果分析に基づく改善計画の着実な実施(5教科)	○教員アンケート肯定的評価 「ジグソー法を使い、主体的な学びとなる授業づくりに取り組めた。」	100%						イ		
			○「Chromebook を使い、主体的な学びとなる授業づくりに取り組んだ。」	100%						ロ		
			○生徒アンケートの肯定的評価 「ジグソー法で、人の考え方をもとに、自分の考え方を深めた。」	95%						ハ		
			○「人の考え方を受け止め、主体的に自分の意見を述べ、意見交流で考え方を深まることが多いとなった。」	85%								
			○授業参観者アンケートの肯定的評価 「主体的に学び合い、考え方を深めあつていると思う。」	80%								
豊かな心の育成 人権意識と品格のある生徒を育てる。	相手を思いやる行動や、「あいさつプラス1」ができる生徒を育成する。	○凡事徹底と、あいさつプラス1やほっこり行動の推奨指導と評価(随時) ○保護者・地域アンケートの肯定的評価 「あいさつプラス1ができる生徒が増えたと思う。」	○生徒アンケートの肯定的評価 ・「凡事徹底を意識してできた。」「あいさつプラス1ができた。」「ほっこり行動ができた。」	80% 85% 90%								
			○保護者・地域アンケートの肯定的評価 「あいさつプラス1ができる生徒が増えたと思う。」	75%								
			○生徒アンケート肯定的評価 ・「生徒会活動や総割りグループ活動に主体的に取り組んだ。」「自分もあのようになりたいと思う先輩がいる(いた)。」「目標となる先輩となれるよう努力している。」	95%								
			○保護者・地域アンケートの肯定的評価 ・「生徒が主体的に学習や活動に取り組んでいる。」	95%								
子どもと向き合う時間の確保 働き方改革の推進	勤務時間外勤務の減少	○行事や諸活動の見直しと改善 ○部活動時間と定時退校の徹底を図る	○教員アンケート肯定的評価 「行事や諸活動を見直し、改善の工夫や提案を行うことができた。」	100%								
			○行事や諸活動について、見直しや改善を行った数	10								
			○教員アンケート肯定的評価 「時間外勤務を減少させるために、業務改善に努めた。」	100%								

g 達成値 = 肯定的評価(aとb)の和/回答数×100 (アンケートの場合)
h 達成度 = g/f × 100

【自己評価】 A : 100≤(目標達成)
B : 80≤(ほぼ達成) < 100
C : 60≤(もう少し) < 80
D : (できていない) < 60

k 【二次評価】 イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。

令和2年度 学校評価自己評価表（最終評価）

a ミッション	【世羅町教育プラン】 豊かな人間性をもち、たくましく未来を拓く、しなやかで、品格のある生徒の育成	a ビジョン 【めざす学校像】 学んでよかった(生徒)、学ばせてよかった(保護者)、学ばせたい(地域)、やりがいのある(教職員)学校 【学校教育目標】 豊かな心をもち、主体的に学び合う生徒の育成	(子どもたちに育てたい資質・能力) ◎ 知識・技能 ◎ 忍耐力・判断力・表現力 ◎ 主体性・人間性	世羅町立世羅西中学校				
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値 g 達成値 h 達成度 i 評価 j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ：正解 ロ：不正解 ハ：わからない	l コメント	m 改善案	
学力の向上	生徒の主体的な学びを引き出し、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。	○協調学習の理論研修の実施（年2回以上） ○協調学習の授業実践（1人2回以上） ○標準学力調査結果分析に基づく改善計画の着実な実施（5教科）	○教員アンケート肯定的評価 「ジグソー法を使い、主体的な学びとなる授業づくりに取り組めた」	100% 50% 63% 63%	c	東京大学C O R E Fと連携し、Zoomを使ってジグソー法の授業研究と理論研修を行った。コロナ禍にあって、日常的には、ジグソー法の授業づくりが進めにくかった。	3	・新型コロナウイルス感染拡大の中で、感染症対策をとりつつ、各教科の特性に配慮しながら、教育課程の完全実施、生徒の学びの保証に努めていく。 ・未実施のジグソー法での授業については、年度内に実施していく。 ・主体的な学び合いの場を、授業の中に設定し、グループや全体会で答えあうことを通じて、生徒一人一人の考えがより深まるような授業づくりに努める。
			○生徒アンケートの肯定的評価 「ジグソー法で、人の考え方とともに、自分の考え方を深まった」	96% 96% 96% 103%	a	これまでの継続した指導により、生徒自身もその手法を理解し、ジグソー法について好意的に捉えている。	3	・これまで少・中で継続した取組により、ジグソー法について生徒は好意的に捉えていることは成果であると考える。 ・今後も標準学力調査結果分析に基づく授業改善を進め、教員自身も自分の授業改善が進んでいるという実感がもてるような取組を期待する。
			○授業参観者アンケートの肯定的評価 「主体的に学び合い、考え方を深めていると思う」	80% — — —	-	保護者の授業参観を行なうことができず、授業参観者アンケートが実施できていない。	1	・今後も標準学力調査結果分析に基づく授業改善を進め、教員自身も自分の授業改善が進んでいるという実感がもてるような取組を期待する。
			○標準学力調査結果分析に基づく改善計画の着実な実施（5教科）	+15% — +36% 240%	a	改善計画に基づき、各教科を取り組んでいる。現在調査しているものの結果は+36%であった。今後、再調査する予定のものもある。	3	確かな学力の定着に向け、引き続き各教科・各学年の課題を意識し、日常的に取り組んでいく。
豊かな心の育成	相手を思いやる行動や、「あいさつプラス1」ができる生徒を育成する。 人権意識と品格のある生徒を育てる。	○人権教育推進のための研修（年2回） ○あいさつプラス1とほっこり行動の推奨指導と評価 ○活動前におけるリーダーへの綿密な指導及び、事後の評価（随時）	○生徒アンケートの肯定的評価 「自分にはよいところがあると思う」	90% 80% 86% 96%	b	「とても」が増加し、「まったく」が減少し、全体で86%の肯定的回答になった。	3	・「自分にはよいところがあると思う」生徒が増加したことは成果である。今後は、自分にはどんなところがよいところなのか内容を書かせていくことにより、「自己を認識する力」に繋がっていくのではないかと思う。
			○生徒アンケートの肯定的評価 ・「あいさつプラス1ができた」「ほっこり行動ができた」	80% 70% 88% 86% 80% 92% 100% 131%	a	「あいさつプラス1」「ほっこり行動」は、学校生活の中で定着してきている。今後は、家庭や地域でも実践できるように取組を進めていく。	2	・「生徒会活動や縦割りグループ活動」はせらにし・中の特色とすべき活動であると思う。これからも主体性を育み、「目標となる先輩となるれるよう努力している」と回答が多かったと思われる。
			○保護者・地域アンケートの肯定的評価 「あいさつプラス1ができる生徒が増えたと思う。」	75% 100% 31% 41%	d	アンケートの問い合わせ方法が前期と違つており、答えにくかったと思われる。今後は評価しやすく分かりやすい内容にする必要があると考える。	1	・「生徒会活動や縦割りグループ活動」はせらにし・中の特色とすべき活動であると思う。これからも主体性を育み、「目標となる先輩となるれるよう努力している」と回答が多かったと思われる。
			○生徒会活動や縦割りグループ活動を活性化させ、生徒の主体性と相互存在感を高める。	95% 95% 95% 100% 98% 100% 103%	a	「生徒会活動や縦割りグループ活動に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価は98%、「自分もあるようになりたいと思う先輩がいる（1・2年）」の肯定的評価は97%、「目標となる先輩となるれるよう努力している（3年）」の肯定的評価は100%であった。生徒の肯定的評価は高く、生徒の主体性の発揮により、生徒会活動が活性化していると考える。	3	・今後も、生徒会を中心としたリーダーへの事前及び事後の指導・支援・評価をしていく。・あいさつプラス1を地域の方々と一緒に取り組み、100%を目指せばと思います。
子どもと向き合う時間の確保	働き方改革の推進	勤務時間外勤務の減少	○教員アンケート肯定的評価 「行事や諸活動を見直し、改善の工夫や提案を行うことができた」	100% 67% 75% 75%	c	行事や諸活動において「感染症対策に関する取組」を行い、生徒の安全と内容の見直しを図ることができた。しかし、個人的には、改善の工夫や提案をすることが十分でなかったと捉えている。	2	・小・中連携を行い、今年度の実施計画をもとに来年度の行事の工夫改善を図っていくことが大切であると思う。 ・一部の職員に業務が集中しないようにするとともに、協力やすい協働体制を整え、だれもが困っているときにはお互いに声かけられる職員集団を目指してほしい。
			○行事や諸活動の見直しと改善をした数	10 90% 130% 130%	a	主に、コロナ禍での行事や諸活動についての意見提出をして13件。	1	・コロナ禍の中での、これまで以上に業務が増え、大変な条件を克服されての取組は大いに評価できます。
			○スイスイ水曜日の徹底	100% 55% 67% 67%	c	行事の中止や縮小などにより、土日の勤務は減少した。また平日の帰宅もいくぶん早くなっている。 しかし、感染症対策を取りながらの教育活動は、職員の負担となっている。 一部の職員に業務が集中している。	2	一部の職員に業務が集中しないように、校務の振り分けを再考し、各分掌内でも役割分担を明確にして、協力協働しやすい組織づくりをする。

g 達成値 = 肯定的評価(aとb)の和／回答数×100 (アンケートの場合)
h 達成度 = g/f × 100

【自己評価】 A : 100 ≤ (目標達成)
B : 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C : 60 ≤ (もう少し) < 80
D : (できていない) < 60

【二次評価】 イ : 自己評価は適正である。 ロ : 自己評価は適正でない。 ハ : わからない。